山田 華緒李

YAMADA KAORI

1994年 上越市出身
2020年 地域おこし協力隊として市内矢田地区に赴任

柏崎市4人目の地域おこし協力隊として昨年9月、市内矢田地区に赴任した山田華緒李さん。この地区で長く営業していた「矢田屋」を拠点に、地域の人たちの交流の場を作るというミッションに挑んでいる。

山田さんは学生時代に美術系の大学で学び、芸術学を専攻した。特に中国の少数民族が作る藍染めの亮布（リャンプー）に興味を持ち、度々調査のために中国の貴州省を訪れた。亮布を作る苗（みゃお）族は中国西南部の少数民族でそれぞれ村を作り点在している。その村々を訪ね、亮布を調べて歩くうち、観光などで開発が進み農村の環境が均一化されていく様子に、山田さんは村の人たちの個性が失われているような気がした。そんな経験から「地域の人たちが主体になれる町づくり、村づくりを手助けするような仕事がしたい」と思うようになったという。

就職する年になり、コロナ禍の影響から地域で働きたいと考えた山田さんは、全国各地の自治体から募集のある地域おこし協力隊に着目し「ここでなら自由に地域の人が主役になれるようなことができそう」だと矢田地区の協力隊に応募し採用となった。

活動拠点となる矢田屋では協力隊の着任前から地域の人たちが掃除や片付けをして山田さんを迎え入れてくれた。現在の活動は毎週2回、地域の人たちと折り紙をする茶話会や、月1・2回行うイベントを「矢田ガク」と名付け「草木染め体験」や、地域の方を講師に「そば打ち教室」、「ハンドメイド講座」、「矢田の歴史を学ぶ」など、さまざまな企画を提案し地域の人たちと交流を深めている。

10月3日に行われる矢田地区の秋祭りには地域の人たちと一緒に新しく作り直した神楽の「天狗の衣装」が初披露される。

これは毎年春に開催される矢田地区の神楽で古くから伝えられてきた衣装の劣化が進んでいたことから、矢田長寿会より衣装の作り直しを依頼され取り組んできたもの。折しも大学時代の恩師から山田さんの元へ伝統染色の亮布を一緒に作ってほしいとの依頼もあったことから、協力隊活動と絡められないかと考え、新しい祭りの衣装を亮布で作るプロジェクトを始めることにした。

綿布を藍で染め、膠（にかわ）と卵白を塗り、乾燥させて布を叩くという工程を8回ほど繰り返すと赤紫色の光沢のある美しい亮布ができあがる。山田さんは地域の人たちに声を掛け、道具の調達や亮布づくり、裁断や縫製など、難しい祭りの衣装を地域の人たちと協力しながら一緒に作り上げた。

「団結力があり、一緒にやってみようという呼びかけに反応してくれるのがこの地域の良いところ。参加してくれる人が多いというのはありがたいことだと思う」という山田さん。地域のために全力で何かしたいと話し、今後は矢田屋が存続していける未来を考えていきたいと笑顔を向けた。

お問い合わせ

carboyamd@gmail.com